

地方部における道の駅を中心とした生活関連施設の集約化について

秋田大学 学生会員 ○渡邊健太
秋田大学 正 会 員 木村一裕
秋田大学 正 会 員 日野 智
秋田大学 正 会 員 鈴木 雄

1. はじめに

近年地方部で公共交通の衰退が問題となっている。郊外では生活に必要な施設が散在しており、施設間の移動に時間とお金が多額にかかる。これらの問題を解決するために施設を1か所に集約し1回の外出で複数の用事を済ませられる複合施設の設置が挙げられる。

そこで本研究では集約の拠点として、休憩機能と地域との連携機能を併せ持つ道の駅に着目し、秋田県内の道の駅を中心とした生活施設の集約の程度を複数比較することで、施設集約が有効かどうか検証することを目的とする。またこの比較から郊外部における施設集約のあり方についても検討する。

2. 研究方法

本研究ではまず集約の拠点となる道の駅を比較するための評価項目を表1に、道の駅に集約が可能である道の駅周辺の施設の評価項目を表2に定めた。

表1 道の駅の評価項目

- | |
|---------------------------|
| 1. 道の駅の利用頻度 |
| 2. 道の駅内の施設そのものの満足度 |
| 3. その施設が道の駅と一緒にあることによる満足度 |

表2 道の駅周辺の施設の評価項目

- | |
|---------------------------------|
| 1. 施設の利用のしやすさに対する満足度 |
| 2. 仮にその施設が道の駅から徒歩圏内にあったときの評価 |
| 3. 仮にその施設が道の駅内で1つの建物内に集約したときの評価 |

次に集約した複合施設に対する評価項目を表3のように設けた。最後に道の駅を中心とした複合施設に伴った公共交通の整備をレベル別に表4のようにおいた。以上を考慮して秋田県内の3つの道の駅の周辺地域を対象にアンケート調査を実施した。表5にアンケートの概要を、表6にアンケート対象地域の特徴を示す。

表3 複合施設に対する評価項目

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 用事のあと他の施設もまわれる | 2. 用事の前に時間をつぶせる |
| 3. 用事がなくとも過ごせる | 4. 家族と一緒にに行ける |
| 5. 地域の人と会える | 6. 休憩、談話できる |
| 7. 地域の拠点がでる | 8. 定期的なイベントがある |

表4 複合施設までの公共交通のレベル

レベル1 現状維持	レベル2 運行本数の増加
レベル3 曜日別交通	レベル4 予約遠距離低料金交通
レベル5 予約なし遠距離低料金交通	レベル6 低料金交通
レベル7 無料交通	

表5 アンケート配布地域と回収率

対象地域	道の駅 東由利周辺	道の駅清水の里 ・鳥海郷	道の駅 おおうち
配布部数	300部	268部	300部
回収部数	122部(回収率40.7%)	102部(回収率38.1%)	117部(回収率39.0%)

表6 アンケート対象地域の特徴

道の駅	東由利	清水の里 ・鳥海郷	おおうち
道の駅内の施設	レストラン 温泉 スーパー (直売所含む)	レストラン 直売所	レストラン 温泉 直売所
道の駅から 200m以内の施設	市役所支所 郵便局 信用金庫 診療所	診療所 福祉施設	なし
道の駅から 5km以内の施設	図書館 福祉施設	市役所支所 郵便局	市役所支所 郵便局 信用金庫 診療所 スーパー

対象地域の選定基準には道の駅周辺の施設の集約の程度が関わっており、集約が進んでいる(東由利)、やや集約している(清水の里・鳥海郷)、集約していない(おおうち)という基準で道の駅を選定した。

3. 道の駅及び周辺の施設

表1から各道の駅の施設を評価すると、利用頻度で「週1回以上」が被験者の7割を上回った道の駅東由利では施設そのものの満足度がそれぞれ高く、道の駅と一緒にあることによる満足度と大きな差は見られなかった。しかし「週1回以上」の利用が被験者の4割と少ない道の駅清水の里・鳥海郷では施設そのものの満足度は高くなかったが、道の駅と一緒にあることによる満足度が高い割合を示していた(図1、図2)。このことから施設が道の駅と一緒にあることで満足度の向上が見込めると考えられる。

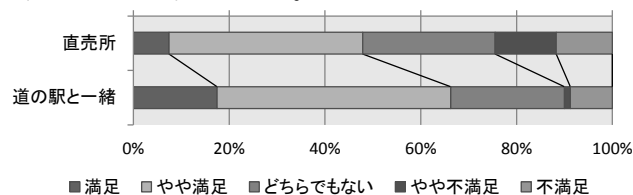


図1 道の駅清水の里・鳥海郷の満足度(直売所)

キーワード : 道の駅 複合施設 郊外部 公共交通

連絡先 : 〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1-1 TEL:018-889-2368 FAX:018-889-2975

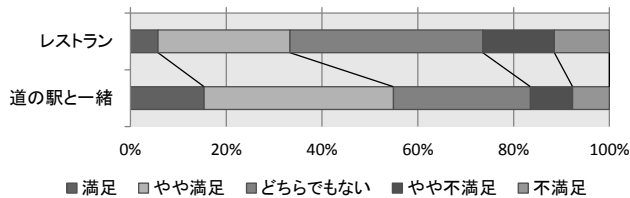


図2 道の駅清水の里・鳥海郷の満足度(レストラン)

表2から各道の駅周辺の施設を評価すると、道の駅から5km以内の施設よりも200m以内の施設の方が高い満足度を示した。このことも道の駅と一緒にあることによる施設の満足度の向上を示唆しているのではないかと考えられる。また施設が道の駅から徒歩圏内にある場合と道の駅内で同じ建物に集約される場合の利便性の向上はどの道の駅でも7割以上の被験者が施設の利便性が向上すると答えた。そして両者を比較してみると、全般的に道の駅内で同じ建物の中に集約した場合の方が被験者の施設に対する利便性が向上するという回答が多く、集約の形としてこちらの方が優れているといえる。

4. 複合施設に対する意識

施設を集約して複合施設を設置するとき施設の必要性に影響する要因を明らかにするため、表3の項目をアイテムとして数量化理論Ⅱ類を用い、分析を行った。道の駅から自宅まで2km未満の被験者を表7に、2km以上の被験者を対象としたものを表8に示す。

表7 集約の必要性に影響する要因(自宅まで2km未満)

	道の駅		
	東由利	清水の里・鳥海郷	おおうち
用事のあと他の施設もまわれる	0.63	0.85	2.45
用事の前に時間をつぶせる	1.94	0.62	1.25
用事がなくとも過ごせる	1.89	2.66	1.23
家族と一緒にに行ける	2.51	2.08	1.57
地域の人と会える	1.03	1.30	0.76
休憩、談話できる	0.72	2.49	0.18
地域の拠点ができる	1.81	2.38	0.58
定期的なイベントがある	1.00	1.38	0.50
相関比	0.52	0.44	0.50

表8 集約の必要性に影響する要因(自宅まで2km以上)

	道の駅		
	東由利	清水の里・鳥海郷	おおうち
用事のあと他の施設もまわれる	0.41	3.20	1.28
用事の前に時間をつぶせる	0.45	1.30	0.66
用事がなくとも過ごせる	1.64	1.44	0.84
家族と一緒にに行ける	2.47	1.48	0.99
地域の人と会える	0.72	0.74	0.57
休憩、談話できる	0.75	0.71	1.95
地域の拠点ができる	0.68	2.66	1.40
定期的なイベントがある	0.39	1.93	0.38
相関比	0.55	0.57	0.37

表7から道の駅から2km未満の被験者は全員が共通

して「用事がなくとも過ごせる」と「家族と一緒にに行ける」の項目の影響が大きいことがわかった。道の駅から2km未満の被験者にとって身近に家族と一緒に気軽に訪れることのできる施設を求めていることが考えられる。また表8からは道の駅清水の里・鳥海郷とおおうちでは、道の駅から2km以上離れている被験者は「用事のあと他の施設もまわれる」と「地域の拠点ができる」の項目の影響が大きいことがわかった。これは様々な用途で利用できる地域の拠点が求める被験者が多いからであると考えられる。道の駅東由利でこれらの項目のレンジが高くなかったことは道の駅の周辺が既に地域の拠点であり複数の用事を済ませることができるからであると考えられる。

5. 公共交通の改善の必要性

道の駅に複合施設の設置を仮定したとき、公共交通整備には住民やまちに負担がかかることを前提としたうえでそこまでの公共交通はどう整備すべきか聞いたところ、図3のような結果が出た。

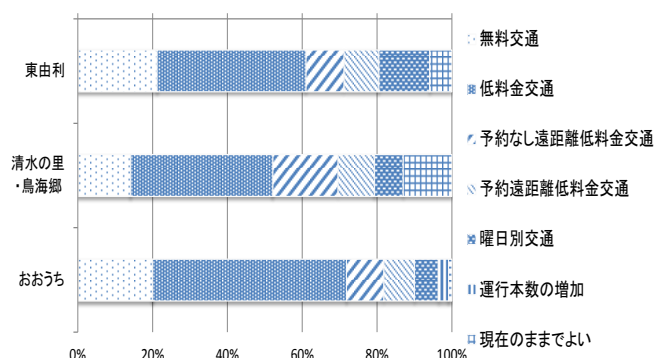


図3 公共交通整備の必要性

各道の駅で「低料金交通」を望む被験者が約4割を占めた。また、各道の駅で「現在のままでよい」の項目が2割にも満たないことから複合施設を設置する場合、公共交通の整備が必要となることがわかる。

6. おわりに

本研究では施設を集約の有効性とそのあり方について明らかにした。他の施設もまわれる、家族と一緒に気軽に訪れることのできる地域の拠点が求められていることがわかった。道の駅に施設を集約する場合、このことに留意してソフト面を工夫することで特色のある複合施設、地域の拠点ができるのではないだろうか。

参考文献

- (1) 藤原亮：外出行動と地域施設の配置に関する研究, 秋田大学卒業論文, 2010